

「まちのカルチャーカフェ」とは？



街には多様な人が住んでいます。そこに住んでいる人の生活習慣や好みによって街の文化が形成されます。一方で大学には、様々な知識が蓄積されていて、学びの場があり、文化につながる要素があります。

そんな街と大学がつながるとどんな化学反応がおこるのでしょうか？東京都の郊外にある「小金井市」。小金井市には、約11万人が住み、約1万5000人が働きに来て、約1万3000人が学びに来ています。多摩エリアに範囲を広げれば、約420万人が暮らす地域です。

そして、小金井市にある「東京学芸大学」は、1964年にキャンパスを小金井市に統合し、教育学部を中心に、小中高の教員をはじめ、多くの人材を輩出してきました。5000人以上の学生と、500人を越える教職員が在籍しています。「まちのカルチャーカフェ」は、まちと大学をつなげる試みです。まちの人と大学の人とがひとつのテーマで話をすることで、新しい発見や次の動きを誘発することを期待しています。一方的ではなく、お茶を飲みながら、時にはお酒を飲みながら、気楽な気持ちで興味のおもむくままに、会話を重ねることで、思いもよらなかった街の文化が生まれることを期待しています。

2016年の「まちのカルチャーカフェ」は、6月から毎月1回、テーマを決めて、まちの人と大学の人と、聞く人と話す人の役割を担いながら、教育、人文、社会、自然、芸術、スポーツなど様々なジャンルの中から興味のあるテーマを選び、自分たちの暮らしとの関わりを大事にしなが、参加者といっしょに話をしていきます。会場は、2015年春に東京学芸大学附属図書館の入口にできた「ノートカフェ」。大学と地域の垣根を越え、多様な人と情報が行き交う、創造的な学びと気づきの場です。

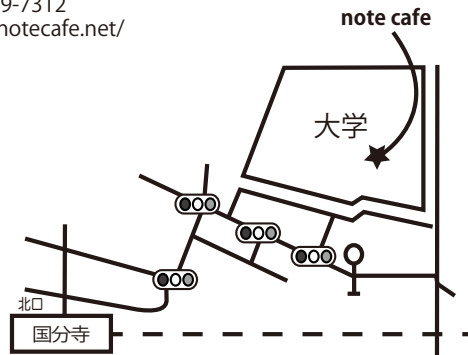
▼ 今後の予定

- 8月 1日 「これからの働き方、働くこと考」
- 9月 12日 「小金井と文学 - 大岡昇平の歩いた"はげ"の道」

Access

★ 東京学芸大学図書館カフェ note cafe

東京都小金井市貫井北町 4-1-1
042-329-7312
<http://notecafe.net/>



▼ JR 武蔵小金井駅 北口より

徒歩：約 20 分
バス：京王バス「小平団地」行で約 10 分、
「学芸大正門」下車後、徒歩約 3 分

▼ JR 国分寺駅 北口より

徒歩：約 20 分
バス：銀河鉄道バス「小平駅南口」行で約 10 分、「学芸大学」下車後
北門よりキャンパスに入って約 4 分

▼ 西武新宿線小平駅南口より

バス：銀河鉄道バス「国分寺駅入口」行で約 15 分、「学芸大学」下車
下車後北門よりキャンパスに入って約 4 分

第 2 回



テーマ
「“農家みち” が都市を再生する」

7 / 25 (月)

19:00 ~ 21:00

問い合わせ先

NPO 法人東京学芸大こども未来研究所
担当：小山田、和田
TEL：042-312-4112 Mail：codomo@u-gakugei.ac.jp

学芸大学図書館カフェ note cafe

テーマ 2

「農家みち」が都市を再生する



小金井市の一角に「小金井 江戸の農家みち」と名付けられた道があるのをご存じでしょうか。農家の野菜直売所が並んでいるために付けられた名前ですが、そこで行われるのは野菜の直売だけではありません。いろいろな人が集まり、いろいろな交流が行われています。江戸東京野菜から、ジャムやハチミツ、切り花まで売っていて、毎月第一日曜日には様々な催しが開かれます。歴史を物語る人がいたり、個展を開ける場所があったりもします。農家の方々が普通に生活をしている場所ですが、都市の人を惹きつけつつある場所でもあります。こうした「農家みち」を立ち上げた村岡尚さんと山中元さんに、そのコンセプトや立ち上げまでのプロセスを話してもらいます。

聞き手は東京学芸大学の椿真智子教授。地理学を専門としていて、学芸大周辺の景観にも詳しいのですが、北米でも調査をしています。アメリカ西海岸の日系人には、庭師がたいへん多かったそうです。こうした椿さんの地理学と、農家みちが交わると何が生まれてくるのでしょうか？

「まちのカルチャーカフェ」第二弾です。*参考

・第一日曜日の催し、こがね市

<http://shitteru-koganei.net/koganeievent/koganeichi/>

・歴史を物語る人、物語屋

<http://monogatariya.main.jp/introduction.html>

Main Person

話す人

村岡尚(ひさ)

小金井江戸の農家みちの会代表、木版画家

広島出身。広島大学大学院博士課程にて都市景観研究を行い、東京の都市計画コンサルタントへ就職。退職後、木版画家として活動する傍ら、「小金井江戸の農家みち」を発掘、プロデュースを行っている。近年は、食、歴史、景観などの側面から情報発信やイベント企画、歴史発掘、保存などを行う。



山中元(げん)

小金井 江戸の農家みちの会メンバー、
設計事務所勤務

三鷹育ち。法政大学建築学科小金井キャンパス在学中、都市史研究室で市内農地の変遷を研究。在学中に学食への地場産野菜導入を提案、実施。農業サークル「あぐり」設立。江戸東京野菜のまちおこしにも参画した。



聞く人

椿 真智子

東京学芸大学 教授
専門は文化・歴史地理学

静岡県西伊豆生まれ、静岡市(旧清水市)育ち。府中市在住。筑波大学博士課程歴史・人類学研究科修了。1992年東京学芸大学に着任。風土に根差した地域文化や、多民族社会とエスニック文化、移民、フロンティア、景観が主な研究テーマ。4年間、留学生センター長として多文化社会への対応に向けた教育を模索する一方、地域固有の文化の意味と持続性・継承性を重視し、スタディーツアーを実施してきた。



Information

日時

7月25日(月) 19:00~21:00

会場

東京学芸大学図書館カフェ note cafe

定員

30人

参加費

1500円(ワンドリンク付き) 学生は500円

※事前にお申し込みの上、当日受付にてお支払いください。

主催

NPO 法人東京学芸大こども未来研究所

協力

東京学芸大学 / 東京学芸大学図書館カフェ note cafe

How to Apply

イベント名(第2回)、氏名、
所属・肩書き、住所、携帯番号を明記して、
下記申し込みフォームより
お申し込みください。



申し込みフォーム
<https://ssl.form-mailer.jp/fms/fd8f0b0a442260>